

底流

「新たな地域医療構想」を前に思う

新たな地域医療構想は医療計画の上位概念とされた。現場の意見が地域医療構想を通して、医療計画に十分に反映されるべきである。

今年2025年は地域医療構想の目標年だ。今年で終わりとはいわねど、2040年を目指した新たな地域医療構想を始めることになった。
これまでの経過、特に都内病床数に着目して振り返る。地域医療構想の大きな目的の一つは病床の削減であった。

今年2025年は地域医療構想の目標年だ。今年で終わりとはいわねど、2040年を目指した新たな地域医療構想を始めることになった。
これまでの経過、特に都内病床数に着目して振り返る。地域医療構想の大きな目的の一つは病床の削減であった。

今年2025年は地域医療構想の目標年だ。今年で終わりとはいわねど、2040年を目指した新たな地域医療構想を始めることになった。
これまでの経過、特に都内病床数に着目して振り返る。地域医療構想の大きな目的の一つは病床の削減であった。

地区医師会長連絡協議会報告

令和7年3月21日(金)

◎都医からの伝達事項

(1) 高額療養費制度の凍結に関する緊急声明について
高額療養費制度の見直しについて、いったん凍結とするよう、3月5日付で東京都医師会より緊急声明を公表した。その後、今年8月の負担

(2) 「健康食品・サプリメント」[成力]のすべてについて
日本医師会・日本歯科医師会・日本薬剤師会が総監修した同書についてご紹介した。

(3) 嘱託産業医の業務に係る実態調査の実施について
産業保健委員会において、労働安全衛生総合研究所と共同で、東京都医師会会員である日医認定産業医を対象とした実態調査を実施することとした。本調査は、平成24年より定期的に実施している調査で、嘱託産業医の業務状況の推移等を把握し、今後の産業医活動の更なる支援事業を検討するための資料とするもの

(4) 胸部エックス線検査読影支援事業について
結核予防会では、精度の高い肺がん検診を支援するため、胸部エックス線検査読影支援事業を行っている。今般結核予防会のご担当者より本事業の概要についてご説明いただいた。

(5) 「東京都医師会大規模イベント医療・救護研修会」の開催について
令和7年は、9月に「世界陸上」11月に「デフリンピック」が開催される。大規模イベント時に特に留意すべき事項を整理し、会員が安全・安心な医療を提供できるようにすることを目的として、3月30日(日)午後1時30分より本研修会を開催する。多くの地区医師会から積極的に出席いただきたいたのでご案内した。

(6) 東京JMAT研修会学習動画の公開について
本研修会では、講義部分を事前学習に代え、研修会前に動画(190分)を視聴の上、受講いただいている。研修会受講者から、受講後も資料を視聴したいという要望があったことから、学習動画を公開した。災害医療に関する知識の普及と既受講者の情報のアップデートのため、多くの関係者に視聴いただきたいたのでご案内した。

(7) 高齢社会における運転技能・運転環境シンポジウムの開催について
高齢ドライバーが安心・安全に運転できる社会の実現のための一助として、本シンポジウムを5月17日(土)午後2時よりWEBにて開催する。医療・介護関係者の他、都民にも広く周知し、多くの方にご参加いただきたいたので周知をお願いした。

◎地区医師会からの報告

(1) 中央ブロック

①下谷医師会立看護高等専修学校ポスター配布について
(下谷医師会)

(2) 城東ブロック

①杉並区医師会学術研究発表会の開催について
(杉並区医師会)

(3) 城西ブロック

①第158回日本医師会臨時代議員会における代表質問について
②5歳児健診に関する情報共有について
(八王子市医師会)

(4) 城南ブロック

①第27回板橋区医師会医学云誌について(板橋区医師会)

(5) 城北ブロック

①第7回調布医学会について(調布市医師会)

(7) 大学ブロック
◎出席者による意見交換
①第158回日本医師会臨時代議員会における代表質問について
②5歳児健診に関する情報共有について
(八王子市医師会)

湾岸四都市医師会懇談会



戸塚会長 (横浜市)



岡野会長 (川崎市)

3月1日(土)、都内ホテルにて湾岸四都市医師会懇談会が行われた。当番医師会である横浜市医師会の根上茂治総務担当常任理事の司会進行で始まり、はじめに同医師会の戸塚武和会長より挨拶があった。続いて次期当番となる川崎市医師会の岡野敏明会

長、各医師会会長として東京都医師会の尾崎治夫会長、千葉市医師会の大濱洋一会長の挨拶が続いた。当日は、横浜市医師会15名、川崎市医師会4名、千葉市医師会4名、東京都医師会6名が参加し、テーブルごとに自己紹介や意見交換がなされた。

本懇談会では、毎回講演内容を当番医師会が企画することになっており、今回は日本医師会の釜淵敏副会長から「医政活動の重要性」と題し、講演があった。釜淵副会長は冒頭、「国民皆保険制度は日本の社会保障の根幹の一つであり、医師会の役割

は国民の生命と健康を守り、医師の医療活動を支えることと述べた。また、医療を取り巻く諸問題として、新型コロナウイルス対策、診療報酬改定、かかりつけ



大濱会長 (千葉市)



尾崎会長



釜淵副会長 (日医)

引き続き、岡野川崎市医師会長による乾杯の発声で懇談会が始まり、終始和やかに進んだ。結びに横浜市医師会の赤羽重樹副会長より閉会挨拶があり、盛会裏に終了した。

令和6年度 東京都医師会「医学研究賞」「医学生懸賞論文プラタナス大賞」表彰式



(後列) 大澤委員長、下川さん、青山さん、大坪理事 (前列) 落合理事、奥住准教授、尾崎会長、平川副会長

3月19日(水)、東京都医師会館において令和6年度東京都医師会「医学研究賞」および「医学生懸賞論文プラタナス大賞」の表彰式が行われた。本年度は医学研究賞1名、奨励賞4名、また、プラタナス大賞は大賞1名、優秀賞2名が受賞した。

プラタナス大賞は、医学生に自ら考える医師像や医療のあり方を創出してもらい、また将来医師となる医学生を支援し、意識を共有して新たな医師会活動につなげることを目的としている。令和3年度に創立し、「医学の父」ヒポクラテスがその木陰で弟子たちに教えを説いたと伝えられているプラタナスの樹にちなみ名付けられた。



医学研究賞を受賞した奥住准教授 謝辞の様子

表彰式では司会の落合理事より両賞の目的や選考経過について説明があり、その後、尾崎会長より表彰状が授与された。各受賞者からは謝辞とともに、論文執筆の経緯や想い、それぞれの今後の展望が語られた。

医学研究賞・奨励賞 受賞者

- 医学研究賞
○奥住文美 (順天堂大学医師会)
順天堂大学医学部神経学講座 准教授
「アルファシヌクレイノパチーの血液バイオマーカーの確立」
奨励賞
○窪田哲也 (日本橋医師会)
朝日生命成人病研究所附属病院
研究部長兼医療連携部長
「腸内細菌を介したインスリン抵抗性に関連する統合的解析」
奨励賞
○笠原祥生 (世田谷区医師会)
国立研究開発法人国立成育医療研究センター 病院長
「生体肝移植における保因者ドナーの危険因子の検討」
奨励賞
○石川景子 (慶應医師会)
慶應義塾大学 保健管理センター 内科学 助教
「ヒト大腸における休止期LGR5+幹細胞の同定」
奨励賞
○玉井博也 (慶應医師会)
慶應義塾大学病院 臨床研究推進センター/慶應義塾大学医学部 内科学(リウマチ・膠原病) 特任助教
「関節リウマチにおけるアダリムマブ併用時のメトトレキサート減量可能性」

医学生懸賞論文プラタナス大賞 受賞者

- 大賞
○篠田 和 (東京科学大学 5年)
「地域医療の実践を学ぶ場としての子ども食堂の可能性」
優秀賞
○青山龍平 (東京大学 6年)
「医療を再考するー社会的見地と技術革新からー」
優秀賞
○下川一燈 (日本医科大学 5年)
「医療とテクノロジーの狭間で：医師が社会実装を実現するために」

※敬称略、所属は受賞当時

東京都医師会 定例記者会見

「高額療養費制度」の見直しは見送りに

3月11日 (火)開催

東京都医師会は、3月5日付でこの度の「高額療養費制度」の自己負担上限額引き上げなどの見直し案に反対し、凍結を求める緊急声明を公表した。

政府は、3月7日に本年8月の自己負担上限額の引き上げを見送った上で、秋までに改めて方針を検討し、決定すると表明した。尾崎治夫会長は、この決定にまず感謝と安堵を示した。一方で「しかしながら今秋では時間がない。十分な議論ができるのか」と危惧した。

医療費の内訳は保険料5割、税金4割、自己負担1割が目安である。現役世代の社会保険料負担が限界にきていることが伺えるが、高額療養費削減策から着手することは、所得に関係なく医療を受けられる国民皆保険制度の根幹であるセーフティネットの崩壊につながりかねないことから十分な議論が求められる。

また、税収の推移と社会保障支出・国民負担率の国際比較を提示しながら日本の実情を述べ、「国民に呼びかけ、社会保障や皆保険制度のあり方について議論すれば理解は得られるのではないか。持続可能な皆保険制度のあり方とその財源について、決めるのは政府と都民・国民である」と訴えた。まさに2025年

東京都医師会は、役員一同の総意をもって、今回の「高額療養費制度」の自己負担上限額引き上げなどの見直し案に反対し、凍結を求めます。

超高齢社会を迎え、危機的とも言える財源確保の問題に直面している医療費について、国民的議論を行った上で、新たな財源確保の道筋はないのでしょうか。また、財源増が厳しいとすればどこから削っていくのかを、しっかり議論していくべきだと考えます。

私ども東京都医師会の使命は、都民の健康、安心、安全を守ることにあります。その使命のために、病院・診療所の医師が安心して診療に打ち込める環境が大切と考え、今回も民間病院が経営危機から抜け出せるよう、地域医療体制の崩壊を防ぐため東京都に支援を求めました。

私どもの願いは、本当に医療が必要な方に医療を提供し、その方の人命を救うことにあります。その想いで国民皆保険制度を守りながら、全国一律の診療報酬という厳しい環境の中、医療提供体制の維持に努めてきました。

高額療養費制度の上限額引き上げという突如現れた医療費削減政策は、われわれの予期せぬものでした。医療の進歩や新薬の登場によって、助けることができなかつたがん患者さんや難病患者さんに光明が見えてきました。一方で、そうした新薬は高価であり、医療費高騰の原因の一つでもあります。

所得の多い方は、限度額が上がってもそうした医療を引き続き受けられるでしょう。しかしながら、所得の低い方は、今回の改正で医療の継続は難しくなります。保険料を支払うことによって、誰もが平等に医療を受けられる日本の国民皆保険制度。そのセーフティネットを維持するために、私たち医師は歯を食いしばって医療を続けてきたのです。

今回の突然の高額療養費制度の見直しについては、拙速に8月に実行に移すことなく一旦凍結とし、セルフメディケーションによるOTC医薬品の活用など、直接患者さんの命にかかわらない政策から実行に移すなど、都民・国民を巻き込んだ議論をした上で、納得できる削減策を新たに考えていくべきです。

一度決めたことを踏みとどまることは、何ら恥じることはありません。国民皆保険制度を築いてきた先人たちに恥じることもない医療費削減策を、都民・国民を巻き込んで、皆でもう一度考えようではありませんか。

令和7年3月5日
公益社団法人 東京都医師会
会長 尾崎治夫

緊急声明 全文

問題の渦中であり、2030年問題も控えた今、高額療養費の引き上げの是非ではなく、社会保障や医療・介護における質をどのように維持していくか、削減だけでなく財源を増やすことを含めて考えていくことの必要性を語った。

セルフケアの7本の柱

- 1 健康リテラシー
- 2 検査
- 3 衛生管理口腔ケア
- 4 禁煙
- 5 運動・睡眠
- 6 食事
- 7 OTC医薬品

正しい情報を自分なりに理解して実践することが予防医療



尾崎会長

療につながらず。また病気を防ぎ、若い頃から知識を身につけることによって高齢期のフレイルや認知症発症の低下につながる。結果、結果として7のOTC医薬品の活用につながっていくと示した。また、欧米ではがん検診の

受診率は8〜9割とも言われているが、日本では残念ながら多くが5割にも達していない。がんの早期発見・早期治療の開始で約9割が治るとされる現代でも、自覚症状もない時期に見つけるには検診が大事である。これはがんに関わる医療費の抑制にもつながる。尾崎会長は、国民には終始「自分ごととして捉えて一緒に考えてほしい」という熱い想いを込めて語り、政府には「(国民の)納得のいく結論を出していただきたい」と求めた。「これからどうなっていくのか我々も一生懸命考え、医療・介護の内側から今後も意見を発信していきたい」と結んだ。



204 みどりの広場

臨床実習と地域活動から考察する医療の専門性

令和6年度東京都医師会
医学生懸賞文プラタナス大賞 大賞受賞者
東京科学大学医学部医学科6年 篠田和



臨床実習が始まってから約1年が経つ。特に印象に残っているのは、患者さんへの向き合い方である。どの先生も医療者としての責任と信念をもって患者さんに向き合っていた一方で、社会的背景への踏み込み方は多様であった。この気付きから、医療の「専門性」とは何かを深く考えさせられた。

この点に示唆を与えてくれたのは、地域の実情を知りたいと思い参加していたボランティア活動での経験である。私の居住区では支援対象児童等見守り強化事業の一環でボランティアが月2回利用家庭を訪問し、子どもや保護者と雑談するという活動を行っている。利用家庭にゆるいながらもなごりを作ることを目的とした事業で、行政の担当者に相談するのは心配なことがあった場合のみである。

通して、子ども家庭支援センター、社会福祉協議会、放課後等デイサービス、ボランティアなど、必ずしも福祉の専門職ではないさまざまな立場の人々が連携することの意義に触れた。例えば福祉専門職は親子と深く関わり、時には厳しいことも伝える役割を担う。一方私のようなボランティアは、専門知識はないものの緊張感なく話せる相手になりやすい。このように一人一人に対してさまざまな立場の人が関わることによって、より安定して支えられると考えられているのである。このことから、医療で解決できない問題に対しても、多様な関わり方の一つに加わることならぬのではないかと考えるようになった。

この1年間の経験は、専門

性とは単に知識を持つことではなく、それを活かして最善を尽くす姿勢にあると教えてくれた。私は今後、まずは医学的な視点をしっかりと養い、最善を目指すことを妥協しない医療者でありたい。その上で、医学にできることが限られていても、地域の輪の一部として行動できる人でありたい。

※受賞論文の全文は、東京都医師会雑誌5月号に掲載予定です。



2023年3月 門と蔵のある広場にて

駒込駅～染井霊園 ソメイヨシノの起源を辿る

趣味の散歩

ソメイヨシノの起源を辿る旅に出よう。駒込駅を降り、旧古河庭園のバラを横目に、染井銀座商店街を抜ける。かつてこの地は、ソメイヨシノを生み出した植木職人たちの息吹が残る場所だ。やがて、「門と蔵のある広場」へと通り着く。そこには、旧丹羽家の蔵が静かに佇んでいる。この蔵は、ソメイヨシノの歴史を見守ってきた証人だ。春には、蔵を囲むようにソメイヨシノが咲き乱れ、幻想的な光景を作り出す。

この散歩コースは、ソメイヨシノの美しさと歴史を同時に味わえる特別な体験だ。ソメイヨシノが咲き誇る季節に、ぜひ訪れてみてほしい。

都医ニュース表紙の 写真を募集

本ニュースは毎月、季節に合った東京の写真を表紙に掲載しております。その表紙写真に、先生が撮影した写真を応募してみませんか？ 都内の写真で、季節感のあるものをお願いします。本会広報委員会で掲載を決定いたします。なお、掲載された写真は、本会のホームページにも掲載させていただきます。

デジタルカメラやスマートフォンで撮影した600万画素以上(横3000×縦2000ピクセル以上)のデジタルデータ
プリントサイズは、横235mm×縦137.5mm以上

応募・問い合わせ先

〒101-8328 東京都千代田区神田駿河台 2-5
東京都医師会 広報学術課 ☎03-3294-8821 (代)
kouhou@tokyo.med.or.jp

知ってますか？

疲労

疲労の研究は1900年代、特に1999年頃から盛んになった。一つは炎症性サイトカイン。これが脳に伝わると疲労を感じる。脳内の炎症性サイトカインはアセチルコリンが退治するが、アセチルコリンが不足すると、疲労感だけ感じ続けてうつ病にもなる。

一方、eIF2 α が生命維持に必要なタンパク質を合成しているが、疲労でこれにリン酸がくっつくと、タンパク質の合成がストップする。休憩するとリン酸が外れて元に戻る。

この脱リン酸化が重要なので、1に睡眠、2に軽い有酸素運動、3に食事で、脱リン酸化酵素を働かすにはビタミンB1、ケルセチン、アンセリンなどが大事と言われている。その他、細胞の活性酸素が発生すると修復エネルギーが必要になり、追いつかないと炎症になって脳に伝わる。これも疲労であるらしい。

医師国保からのお知らせ

令和6年4月からの保険料について ～今年度、保険料の改定はありません～

	医療保険料(月額)		介護保険料(月額)	後期高齢者組合員保険料(月額)
	医療給付費保険料	後期高齢者支援金等保険料		
第1種	34,500円	5,000円	6,000円	—
第2種	13,500円	5,000円	6,000円	—
家族(中学生～74歳)	7,500円	5,000円	6,000円	—
家族(未就学児・小学生)	4,500円	5,000円	—	—
第3種	—	—	—	1,000円
第4種	—	—	—	1,000円

※介護保険料は、40歳以上65歳未満の方が該当します。※後期高齢者組合員保険料は、第3種・第4種組合員(75歳以上)の方が該当します。

ぜひ、ご家族や常勤の従業員の方と一緒に、医師国保組合に加入してください。
www.tokyo-ishikokuho.or.jp

東京都医師国民健康保険組合 ☎03-3270-6433(業務課)

労災診療費の特例 漏れていませんか？

労災の請求が苦手な先生は
当会へご入会ください



東京労働保険医療協会
会長 尾崎 治夫

東京労働保険医療協会

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-5
東京都医師会館 4階 TEL 03-5577-2960



心れあいポスト

各地区会報から

八王子医師会 岸田功典

変わりゆく時代

さて、2024年の新語・流行語大賞は「ふてほど」でした。昨年3月の医師会報にも書かせて頂きましたが、「不適切にもほどがある！」というドラマがヒットし、その略語が選ばれました。「ふてほど」は初めて聞いたという方も多かったなど、世間であまり知られていなかった単語が受賞しましたので、今回の大賞は不評でしたが、ドラマは大好評でした。ドラマでは阿部サダヲさん演じる昭和の体育教師が2024年にタイムスリップし、現代では不適切とされる発言や行動を繰り返し、コンプライアンスが重視される令和の時代を風刺して話題を呼びました。その影響もあり、昭和や平成の時代に流行したものが再度脚光を浴び、「平成カルチャー」という言葉までトレンド入りしました。

昭和の時代では、みんな所構わずタバコを吸ったり、部活中は水を飲んじゃいけないかったり、罰則としてケツバットがあったり、現代だと大問題になることが日常的に行われてきました。私は高校時代野球部に所属し、ポジションはピッチャーでしたが、毎日300球投げ込みが当たり前という、今からは信じられない根性論が根強い時代で、さぼりながら投げていた自分以外はみんな故障していました。

医療においても、傷は乾かして治すものという、今とは真逆の治療が行われてきました。昭和の時代の年末年始では、多くの奥様方は姑さんとお節料理を作ったり、夫の実家でずっと気を遣ったりと大変な思いをされたと思います。しかし、今では年末年始の過ごし方も大きく変わりました。何でもハラスメントになる現代において、自分の実家・故郷に妻を連れて帰るのもハラスメントになると言われ、「サトハラ」と言われているそうです。そのため、若い世代では各々別々の実家で年末年始を過ごす夫婦も増えていると聞いて驚きました。多様性の時代ですが、多様過ぎて、何か大切なものがどんどん薄れていってしまっている気がします。この考え方自体も古いのかもしれませんが。

今の医学生への認識も大きく変わり、将来の志望進路のNo.1が美容皮膚科で、初期研修の修了した医師がすぐに美容皮膚科に進む「^{ちよくひ}直美」医師が激増しているのも皮膚科医の私としては頭の痛い問題です。もう一度学生さん達には何のために医師を志したのか初心に

戻って考えて頂きたいと思いますが、この問題は、大きな病院や診療所を含め、ひたすら患者さんの命や健康を守るために医療の最前線で頑張っている先生達が報われない現状を反映しているのも一つの要因だと思います。診療報酬改定、薬価の改定を急がなければ日本の医療の未来はお先真っ暗です。

暗いニュースが多い世の中ですが、1月12日に八王子市役所横の河川敷で令和7年八王子市消防団出初式が開

催されました。出初式の最中には、八王子消防記念会の皆様による「はしご乗り」が披露され、4間(7.2m)の梯子の上での妙技に会場は大いに盛り上がりました。変わりゆく時代の中で、古き良き時代の素晴らしい伝統文化が継承されているのは嬉しい限りです。

今年は昭和だと昭和100年になります。今年はどうのような年になるか分かりませんが、皆様にとって素晴らしい1年にしてください。

(『八王子市医師会報』2025年1月 No.442 (626号)より抜粋)



消防出初式



はしご乗りの演技



愛娘と門松



頬張る

練馬区医師会 松田圭二
「初孫の誕生。頬張る姿に思わず失笑。」

無声拝聴

AIがボケるの?!

B M J 誌 (『British Medical Journal』) に AI の認知機能障害に関する論文が掲載された。嬉々として ChatGPT の簡易版だが ホンニン? に聞いてみた。要約すると以下のようになった。

① 時間経過とともに性能が変化することは報告されているが、これは老化とは異なる。② 2023年には AI の数学的問題解決能力、素数判定の正答率が 97・6% から 2・4% に低下したとする報告があるが、このような性能の変化は AI モデルのアップデートや調整によるもので、時間経過による劣化を意味するものではない。

③ AI モデルは継続的に改善が試みられており、その過程では特定のタスクにおいて性能が変動するが、時間とともに「老化」するのではなく、モデルの更新や調整により性能が変化する可能性があると理解するべき。

B M J に載っていた文献では、生成 AI の空

間認知能力の低下や前頭側頭型の認知機能の低下などに触れていたし、前記のように ChatGPT はどうやら訂正不能のようである。自らの認知機能の低下を認めようとするのはヒトにも多く見られることではあるとしても、映画の見過ぎであって欲しいが、機械がこのようにと恐怖を感じる。

ただ胸部レントゲンの異常の指摘や、12誘導心電図の解析において将来の心房細動の発症を指摘したりするなど、人が敵わない部分があるのも事実。人間は歳を取れば必ず何らかの老化現象は見られるが、必ず認知機能が低下するわけでもない。ところが形あるモノ、いつかは壊れるなら、いくら優れた人工知能でも、それを動かす本体は今のところ機械であり劣化は避けられないだろう。やれやれ、仕方ないけどもう少し頑張ってみ守らないとならないようですね。なぜか頬が弛みマス。

(坪田淳)

水痘ワクチン

水痘ワクチン(岡株)は、大阪大学微生物病研究所の高橋理明教授らによって世界に先駆けて開発された。高橋先生のご息の水痘が重症であったこと、白血病の子どもたちが水痘で命を落としていくことを目の当たりにしたことなどが、水痘ワクチン開発のきっかけとなったことを高橋先生から伺った。水痘は基本的には自然治癒傾向の強い軽度な病気であるが、免疫低下者では重症化し時に致命的であったため、ヨーロッパでは1984年にハイリスクの子どもを対象にワクチン接種を認可し、次第に正常児に拡大した。1985年にWHOは、弱毒生水痘ワクチン(岡株)はもっとも望ましい水痘生ワクチンであると

した。岡株とは、患者「岡君」から分離された水痘ウイルスが弱毒生ワクチンの原株となったため「岡君」の名前を残した、とこれも高橋先生から伺った。昨今は個人情報に関わることから人名を病気やウイルスの名称に使用すべきではないとされているが、起源を大切に世に残すということも大切ではなかろうか。

水痘ワクチンは当初は1回接種であった。米国で導入後、水痘は激減したがそれに伴い自然感染によるブースター機会も減少し、免疫効果が減弱したことによる軽症水痘(break through varicella: BTV)が増加し、2回目接種を数年間隔で行うようになった。一方水痘が多かったドイツでは、1回接種では約15%は抗体不十分であることから、短期間で2回目接種を行い、小児水痘を低下させる方式をとった。日本で水痘ワクチンを定期接種する際に2回方式が議論されたが、当時は国内の水痘はほぼ野放し状態であったため、低年齢層の水痘を早くコントロールすることを目的として、短い間隔(1回目は生後12~15カ月、1回目接種後6~12カ月までの間に2回目接種)で2回接種を定期接種とした。それにより、現在5歳未満の水痘は著減したが、学童以上の年齢でのBTVを含む水痘例が相対的に増加している。短い間隔の接種方式でスタートした国内の水痘ワクチンであるが、乳幼児の水痘対策から幅広い年齢層への対策へのシフトとして、間隔の広い接種方式を検討すべき時期ではないだろうか。

(文責：岡部信彦)

感染症豆知識

東京都医師会
感染症予防検討委員会

都医からのお知らせ INFORMATION

第469回 国際治療談話会 例会 「子どもの命を守る—小児救急医療と小児集中医療—」

問合先 (公財)日本国際医学協会 事務局 東京都世田谷区上馬1-11-9 3F
TEL: 03-5486-0601 FAX: 03-5486-0599
E-mail: imsj@imsj.or.jp URL: <https://www.imsj.or.jp/>

日時▶ 5月15日(木) 19時~21時 形式▶ WEB
座長・開会挨拶▶ 市橋 光 ((公財)日本国際医学協会 理事)
【第1部】感想「失われた息子の命をきっかけに設立した「川野小児医学奨学財団」—35年間の活動の中で感じた、子どもたちの心と体を守るために必要なこと—」
川野紘子 (公益財団法人川野小児医学奨学財団 事務局長)
【第2部】講演1「日本小児救急医学会の最近の活動状況を振り返って」
長村敏生 (京都市子ども保健医療相談・事故防止センター センター長)
講演2「我が国の小児集中治療の現状と未来像について」
櫻井淑男 (埼玉医科大学総合医療センター 小児科教授、小児救命救急センター 小児救命救急センター長)
開会挨拶▶ 石橋健一 ((公財)日本国際医学協会 理事長)
申込方法▶ 右記2次元コードまたは協会ホームページより、事前登録をお願いいたします。
参加・視聴▶ 無料 取得単位▶ 日医生涯教育制度1単位(CC:16,0)



都医 HP・E メール

- ホームページアドレス
- Eメールアドレス

<https://www.tokyo.med.or.jp>
jimu@tokyo.med.or.jp

令和7年度 「日本医師会生涯教育講座」 スケジュール

時間 ■ 14:00~17:00
開催方法 ■ WEB 配信のみ
問合先 ■ 東京都医師会 広報学術課 TEL: 03-3294-8821 (代)

開催期日	テーマ
6月26日(木)	遺伝子治療の現状と今後の展望
7月31日(木)	肺癌の集学的治療の進歩
10月30日(木)	肥満症治療の最前線
11月20日(木)	血管炎診療の最近の進歩

※最新情報は東京都医師会ホームページをご確認ください。

FM93 AM1242 月曜から金曜
ニッポン放送 あさ6時15分頃から

『モーニングライフアップ今日の早起きドクター』 放送中!

ニッポン放送 (AM1242kHz / FM93.0MHz) 朝の番組「飯田浩司の OK! Cozy up!」内で6時15分頃から5分程度、東京都医師会の役員・委員会委員等が出演して生活に役立つ健康情報をお届けしています。過去の放送はすべて番組ホームページまたはポッドキャストから聴くことができます。

■ 番組ホームページ
<http://www.1242.com/cozy/>

■ ポッドキャスト
<https://omny.fm/shows/cozy-up/playlists/doctor>

飯田浩司の
OK! Cozy up!



地区医師会長からの一言 都立病院の活動、 特に小児医療について

都立病院医師会長 廣部誠一



私は2023年度まで都立小児総合医療センターに33年間勤め(小児外科/副院長5年/院長6年)、2024年度より都立病院機構理事、そして都立病院医師会長を拝命いたしました。東京都医師会理事の川上一恵先生には都立小児総合医療センター運営協議会委員として以前からご指導いただきました。地区医師会長連絡協議会では、大学のヨット部仲間の黒瀬巖先生(日医常任理事)と再会でき、また東京科学大学医師会会長の藤井靖久先生もヨット部だったとわかり、仲間がたくさんいる気持ちになりました。

都立病院は令和4年7月に経営形態を地方独立行政法人に移行しました。都立14病院の医療資源を最大限活用し、複雑化する医療課題に柔軟に対応できる体制を構築し、それぞれの機能を生かしつつ、一つのメディカルグループとして運営することで、東京都の医療に貢献していきます。医師会活動でも、都立病院医師会として14病院が一体化して活動し、東京都医師会、地区医師会、大学医師会と相互に連携して活動していきます。第一に行政的医療を安定的に提供し、第二に自然災害や感染症等の来るべき災害に備え、危機管理体制の強化に取り組み、第三に地域医療機関と連携し、地域医療の充実に一層貢献していきます。

行政的医療では、特に少子化時代の小児医療の充実が課題です。少子化が日本より進んでいる韓国では、小児科医の減少による救急医療の危機が発生しています。厚労省の小児医療計画では、3次医療圏に1カ所の中核病院、2次医療圏に地域小児科センターを整備し、互いに機能を分担する計画

です。多くの都立病院では小児2次救急を担当し、都立小児総合医療センターは東京都こども救命センターとして3次救急を担うとともに、北米型ERとして誰でも24時間受け入れる体制としています。コロナ禍では重症対応を中心として、軽症も含め多様な医療需要に対応が必要でした。今後も、いざとなったら多様な収容能力が必要とされる可能性があり、少子化対策として「病気になったときに安心な医療がいつでも受けられる医療環境」が求められています。安心な小児医療のため、都立病院機構全体が連携するとともに、地域医療機関と協力していきます。

小児の発達障害など、こころの問題が増加しています。小児総合医療センターでは児童思春期精神科184床と日本最大規模で、入院が必要な重症例を中心に対応し、初診もトリアージで迅速に受け入れる工夫をしています。この度、こころ病棟の子どもたちに対応するファシリティドッグ導入を目指して1月からクラウドファンディングを始めました。開始して2週間程で第一目標の2,000万円の寄付を達成でき、東京都医師会の皆様にもご協力をいただき有り難うございました。動物介在療法は、発達障害の子どもへの不安やストレスを軽減し、仲間とのコミュニケーションを促進する治療効果のエビデンスがあり、今後の精神科医療の充実に工夫していきたいと思えます。

最後になりますが、都立病院は東京都医師会の皆様と連携しながら、東京の安心な医療の実現に貢献していくことを目指していきますので、今後ご支援よろしくお願ひ申し上げます。